

平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 札幌市 】

1 実践テーマ	【I、Ⅲ、V】
2 実施対象者	札幌市立真駒内公園小学校 全校児童 379名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（ 体育 ） ② 行事名（ ） ③ その他（ ） (2) 地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目 標 (ねらい)	オリンピック出場経験者による技術指導と講話を通して、子どもたちが冬のスポーツの代表であるスケートの楽しさを実感する。これからも自分たちの近くにあるスポーツ施設を活用していこうとする意欲的な態度を育てる。
5 取組内容	本校の前身の真駒内曙小学校では、札幌オリンピックでの風船スケーターを務めた。その後もスケート開きに招待され、現在の真駒内公園小学校にも引き継がれ、毎年、4～6年生が真駒内屋外競技場のスケート開きに参加している。今回は、そのセレモニーにオリンピックメダリストの深澤雅子さんを講師として、お話をいただいた。その後、子どもたちと並走して、個別に技術指導をしていただいた。最後に、代表児童から感想とお礼の言葉を伝えて、終了した。 ○指導計画 「体育科」 1 時間 ・自己の能力に適した課題をもち、安定して滑ることができるようにする。 ・運動に進んで取り組み、助け合ってスケートをしたり、安全に気を配ったりすることができるようにする。 ・自己の能力に適した課題の解決に向けて、練習の仕方を工夫できるようにする。



6 主な成果

昨年に続き、子どもたちはオリンピック選手から直接お話を聞く貴重な機会に恵まれたことを大変喜んでいました。まさに本物のアスリートを実感した時間でした。その後の滑走では、直接、本人から聞いた「上手に滑るためのコツ」などを自分なりに考えながら滑ることは、「考える」「試す」を繰り返すことのできる大変有効な教育活動である。さらには、上手にできなかった点をその場で指摘されることは、活動の意欲につながる。

終了後には、スケートの楽しさを実感し、将来の夢へと思いを膨らませた子どもが数人いたことは、今回の学習の大きな成果である。スケート競技場が近いという地の利を生かして、ぜひ今後も、子どもたちに冬の運動に積極的に参加してもらいたいと感じた。

7実践において工夫した点 (事業の特色)	取組の内容に記載した通り。
8主な課題等	今回のスケート学習は、例年行っているスケート開きと連携して、実施した。本校の体育科の冬の学習は、「スキー」を教育課程に位置づけている。そのため、スケート学習を行う子は、今回の活動や放課後、休日等に友達、家族と楽しむなど、スキーに比べて、まだ少ない状況である。本校はスケート競技場が近くにあるため、利便性、バス・リフト代等の金額を考慮して、今後は、スケート学習を教育課程に位置付けていくことも検討を進めていく。
9来年度以降の実施予定	経費や講師の確保等、持続可能な仕組みづくりを検討している。